

第5次行政改革の進捗報告

平成30年度の主な取り組み		主な効果・実績
●仕事の改革 (PDCAサイクル、スピード化)	事業内容の向上・改善、事務の効率化を図るため、「PDCAサイクル」の定着、仕事の「スピード化」に着目し、「事務処理手順マニュアルの作成と見直し」「期間事務計画表作成および進行管理」を含む10項目の改革内容に取り組みました。	・伝票処理などの決済区分に係る合理化・効率化 ・府内会議での配布資料を一部電子化(ペーパーレス化) ・時間外勤務の上限の設定準備 →平成27年度比 1,248時間減少 手当額 84.6% など
●職員の改革 (発想力、実行力)	多様な行政ニーズに応えるために、従来の手法にとらわれることなく、幅広い見識で課題に対し積極的に取り組める発想力と実行力を持った職員を育成するため、「職員研修の充実化」「職員提案制度の充実」「プロジェクトチームなどの設置」を含む7項目の改革内容に取り組みました。	・職員研修参加者延べ人数→198人(平成29年度187人) ・地方創生事業などに関する先進的な取組事例について研修や勉強会を実施 ・フレックスタイム制度(職員提案制度により提案され、平成29年度より試行開始) →平成30年度中延べ49人、合計194時間の利用 など
●組織の改革 (組織づくり)	PDCAサイクルが定着できる仕事の改革、発想力および実行力を有する職員を育成することができる組織づくりを推進するため、また、さまざまな施策をより迅速に実現するため「職員の健康づくり」「組織体制の検証」「男女共同参画の推進」を含む5項目の改革内容に取り組みました。	・衛生委員会の開催 →月1回開催 ストレスチェックを全職員に実施 ・男女共同参画の推進 →係長級以上の女性の割合31% 女性活躍推進法に係る「特定事業主行動計画」の策定および進行管理の実施 など

平成27年度より推進している「第5次行政改革大綱」では、町民ニーズに対応した行政サービスの提供、「自立した行政運営の推進」、「安定した財政基盤の確立」と3つの柱を掲げました。そして、事業経費の削減に加え、町民の要望により適切に応えることができる事業展開および町民が積極的に参加しやすい協働の事業を推進してまいりました。

平成22年度策定の「第4次行政改革大綱」では、行政サービスの提供、「自立した行政運営の推進」、「安定した財政基盤の確立」と3つの柱を掲げました。そして、事業経費の削減に加え、町民の要望により適切に応えることができる事業展開および町民が積極的に参加しやすい協働の事業を推進してまいりました。

町では、行政改革を重要施策の一つとして捉え、昭和62年の行政改革大綱策定以降、実施してきました。平成30年度の取り組みの主な効果と実績を報告します。

問 総務課 庶務係 ☎(83)1221

組織の効率化と経費削減に取り組んでいます

10月29日(火)無料法律相談会

相続、お金の貸し借り、交通事故、職場でのトラブルなどでお困りの方、一人で悩まずにプロの弁護士に相談しませんか。かながわパブリック法律事務所所属の弁護士が、解決に向けて無料でアドバイスしますので、ぜひご相談ください。

10月29日(火)午後1時～5時
南足柄市役所市民相談室(議会棟1階)

●対象

南足柄市および足柄上郡5町に在住・在勤・在学の人 先着8人
(相談時間は1人30分)

●費用 無料

★10月24日(木)までに電話で下記までお申し込みください(午前8時30分から午後5時15分まで)

申 南足柄市市民相談室

☎(73)8004

鼓動
～コドウ～

松田町長 本田 博幸

『おひるねさせないよ！』

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、町民の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

二世帯同居等支援奨励金交付制度

町では、定住促進を図るため、一定の要件を満たした場合に、住宅取得などをされた方へ、次のとおり奨励金を交付する制度を実施しています。

申請期限は、建物登記完了日から住民登録日の遅い日から6ヶ月以内となりますので、申請漏れのないようご注意ください。

●対象・交付額

・町内に住宅を新築または購入する場合10万円
・町内に住宅を新築または購入などをして親世帯と同居や近居をする場合同居30万円、近居20万円(同居、近居ともに10万円分は町商工振興会の商品券で支給)

※詳しくは町公式サイトをご覧ください
問 定住少子化対策係 ☎(84)5541

現在、町の一次産業である『みかん』と『お茶』の畠は、担い手不足などにより『おひるね』状態の畠が増えてきています。その畠を『おひるね』させないよう、町民有志による開拓団を作ることとして、『おひるね』と称するブランド化、更にはシリーーズ化を図り、町ブランド品を一地区に一品以上を目標に増やすことで、生産者や協力者の意欲向上に繋げたいと考えています。現在、町が認定するブランドは、『さくらマス・みかん・お茶』ですが、体験型のイベントを通じて協力者を増やし、対象農產品目の六次産業化を図っています。今後は、官民連携による持続可能な事業へと発展させ、一次産業の復活に取り組んでいきますので、引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

昭和37年に、マーキュリー・宇宙船フレンドシップ7号に乗って地球周回軌道を飛行したジョン・グレン飛行士は、ある寺社の祈祷神札を受けて大願成就しました。その寺社は次のうちどれでしょうか(答えは4面)。

- ①寄神社
- ②寒田神社
- ③福昌院
- ④延命寺

